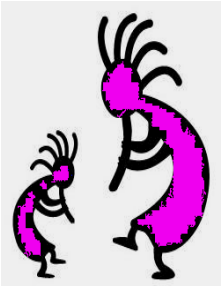


医院だより

令和７年２月（259）

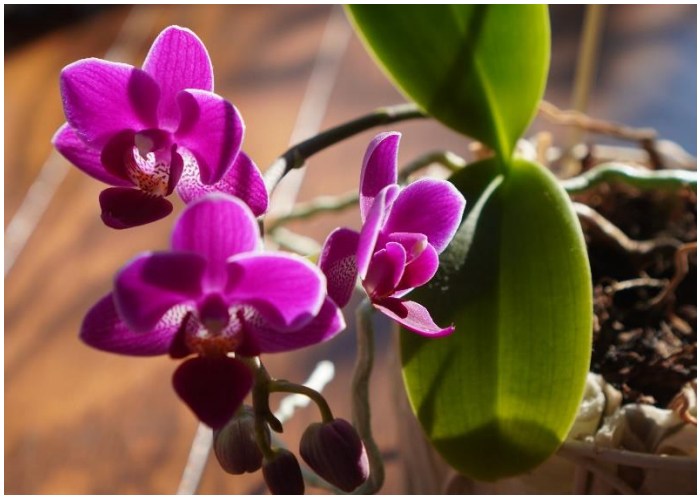
秋　山　医　院
藤岡市小林748-8
☎0274-22-8315

二月

別名　如月（きさらぎ）陰暦2月の異称。語源には他説あるが、『連珠合璧集』に「きさらぎとアラバ、春寒き」とあげるように、一般には衣更着の意にとり、梅は咲き花の匂いは催しても、なお余寒の厳しい感じを本意としてきた。陽暦のほぼ三月にあたるが、きさらぎと呼べば冴え返る感じがある。

きさらぎや火燵（こたつ）のふちを枕もと（嵐雪）

（講談社「カラー図説日本大歳時記」）



胡蝶蘭

目次

1　二月の異称、二月の花、二月の言葉、
2　二月の暦　お知らせ、
当番医、休診案内、健康テレフォン、
3　大岡　信選集
けんこう(百八十一)
群馬県感染症発生動向調査より
4　院長のひとりごと(228)
「言葉の伝わり方(ボコサマセンセ)」

『二月の花』福寿草、蠟梅(ろうばい)、シンビジューム

『二月の言葉』

わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は真理の霊である。世は、この例を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなた方はこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

（ヨハネによる福音書第十四章一六ー一八節）

わたしたちがキリスト信者になったというのは、洗礼を受けてキリスト教会にはいったということではない。または私たちの智能をもってキリスト教の教理を理解したということでもない。わたしたちがクリスチャンになったということは、私たちがある「聖者」を友としてもつようになったということである。しかも単にある古い記録において、ある理想の人を発見したというのではない。今活(い)けるある聖い友人を発見してその伴うところとなったということである。すなわち私たちは大いなるパラクレートスすなわち「側(そば)にある者」を得たということである。寂寞(せきばく)の世にあって孤独の生涯を送るのをやめて、大なる「訓慰師(なぐさめもの)」を平常の友としてもつようになったということである。

（内村鑑三「一日一生」一月二十四日）

「二月の暦」

二　日　節分、豆まき、奈良春日大社万灯籠
三　日　立春
七　日　北方領土の日
十一日　建国記念の日
十三日　成人の日
十四日　聖バレンタインデー
十六日　日蓮上人誕生会
十八日　雨水
二十三日　天皇誕生日
二十四日　振替休日

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができます。カードは保険証の代わりになります。将来的には医療機関は他院での処方や特定検診結果もここから知ることができます。
まだマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証をご提示ください。

二、診療案内
午後の診療を再開しています。
『午前診療』はこれまで通り、
(月)から(金)、8時半から12時半まで、
来院順で診察を致します。
『午後診療』では予約診療と通常診療が受けられます。予約は電話でも受付いたします。
『診療内容』
○一般外来診療
○　往診・在宅医療
○骨粗鬆症の検査・治療
○ピロリ菌の検査と治療
○CT、MRI、PETの予約
○胃カメラ・大腸カメラ
○肺炎球菌・帯状疱疹ワクチンなど

三、当番医　三月十六日
四、休　診　三月二十一、二十二日
五、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン
http://www.raijin.com/kenko/
電話〇二七―二三四―四九七〇

月	手荒れと手湿疹
火	子供のオヤツ
水	人生会議 （アドバンスケアプラニング）
木	聴診器でわかること
金	キシリトールについての誤解
土日	不妊治療・体外受精について

大岡　信著『折々のうた』一（はるのうたから）

石(いは)ばしる垂水の上のさ蕨(わらび)の
萌え出づる春になりにけるかも
志貴(しきの)皇子(みこ)

『万葉集』巻八の巻頭を飾る。春の名歌として愛されてきた。「石ばしる」は石の上を激しく流れるさまを言う。「垂水」は滝。石の上を激しく流れる滝のほとりに、早蕨も芽を出す季節になったのだ。冬は去った。さあ、野に出よう。

志貴皇子は天智天皇の皇子。万葉には六首を残すだけだが、おおらかな調べは天性の歌人たることを示している。右の歌は、「新古今集」にも若干歌詞を変えて採られている。

酒坏(さかづき)に梅の花浮け思ふどち
飲みての後(のち)は散りぬともよし
大伴坂上郎女(おおともの さかのうえのいらつめ)

『万葉集』巻八。作者は万葉女流歌人の大立者で大伴旅人(たびと)の異母妹。家持には叔母だが、郎女の娘が家持の妻となったから、彼の義母ともなった。梅花の下での心通い合う人々との酒宴をたたえる。一同うたげに歓を尽くしたのちは、花は散ってもかまわない、という。そういう形で酒興を一層盛りたて、同時に梅の命をも愛惜しているのである。貫録を感じさせる歌だ。

けんこう　（百八十一）

群馬県感染症発生動向調査より（4週）
（群馬県衛生環境研究所感染制御センター）

★県内でインフルエンザ警報が発令中です。

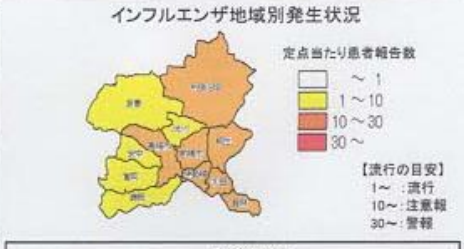
★県内の高齢者施設において、インフルエンザの集団発生があり、入所者が複数名亡くなった事例が1施設でありました。

★インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症は症状がある人の咳やくしゃみのしぶきを吸い込んだり、手についたウイルスが体に入り込んで感染します。
周りに感染を広げないよう、咳エチケットを心がけ、マスクをしていても顔は人からそむけるようにしましょう。
もし手で覆って咳やくしゃみをした場合、手を洗いましょう。
こまめな手洗い、換気、人ごみを避けることも感染症予防に有効です。

★伝染性紅斑の報告が続いています。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいため、手指は石鹸と流水でよく洗うようにしましょう。咳エチケットを心がけることも大切です。

■第4週の注目疾病　（定点当たり報告数）

疾病名	3週	4週	定点当たり報告数の多い地域等
インフルエンザ	21.87	13.45	太田地域(19.20)、館林地域(15.56)、高崎市(15.14)
新型コロナウイルス感染症	5.82	6.84	利根沼田地域(14.00)、渋川地域(7.83)、前橋市(7.54)
伝染性紅斑	0.66	0.87	富岡地域(3.50)、前橋市(1.25)、太田地域・安中地域(1.00)



※2019年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関あたり報告数と定点当たり報告数（令和4年10月3日～令和5年5月1日の速次データ）から作図

「院長のひとりごと(二二八)

言葉の伝わり方 「ボコサマセンセ」

◇それはその方が急逝される僅か1か月ほど前のことでした。

その方のお母さまを往診で診察して帰ろうとしたときに、座敷の出口の畳の上に広げた書類を見せてくださったのです。どういう話の流れであったか、村から出征して亡くなられた兵隊さんの話であったが、こんなに小さな村からにしてはずいぶん多くの戦死者がおられたのに驚きました。

◆お父上は、その方が生まれてすぐに戦死されたので戦没された方々にことさらにご関心があったに違いなかったのでしょう。

そのときは交替で来られる二人の妹さんと百余歳になられたお母さまのお世話をされていました。養蚕の「高山社」に一番近い家系であられたので、私はこんな機会に以前から気になっていたことをぜひうかがってみようと思ったのです。

◇というのは、私が育った新潟の群馬県に近い南魚沼地方では、子供のころは養蚕が盛んで家の外へ出ると近所の家々から『トントン、トントン』と機織りの音が途切れることなく聞こえてきたものでした。

「蚕」のことは「ぼこさま」とよんでいましたが東北地方の「おしらさま」は伝説で聞いていましたが、「ぼこ(凹)」というといかにも田舎っぽい呼び名だなあと、どんな語源かずうっと知りたく思っていました。

東北大学方言研究センター「消えゆく日本語方言の記録調査」(2001年調査)という研究がありますが、そこでは三十一個の呼び名が記録され、その中で、「ボコ」「オボコ」「オボコサマ」「オコサマ」が「ボコサマ」に近い呼び方だなと思いました。

ほかには「ケゴジョ」「ケゴドン」「ヒメッコサン」「ノンノウサマ」などありましたが、3分の1が「サマ」付きの敬称で呼ばれているところから生活のために大切にされ敬われていたことが分かりました。

また当然、いくつかの調査をみても調査の年代が後になればなるほど、記憶されている呼び名の収集数が減っていました。

◆その長男の方に

「お蚕をどう呼んでおられましたか?」

お尋ねすると、

「おかいこさま か **お**(かい)**こさま**だね」

と言われました。

4文字の**「おこさま」**と**「ぼこさま」**のイントネーション(抑揚)は同じです。これでわたしの故郷の方言も根を持ったものであったと「身元が判明したよう」で少しホッとしました。

◇「…センセ」は、「先生」のことだとは想像がつきますが、こう呼ばれていた人が私の生家でしばらく暮らされていたということを、母と昭和十二年生まれの姉の二人から聞いていました。当然以前に父や姉兄たちに聞けば応えてくれたでしょう。

しかし、僅かにこの二人から聞いたことだけが頭に残っていたのでした。

「高山社」見学を何回かやっているといつも新しい発見があり心が躍ります。

優れた考えだなあと感心したことは、養蚕のノウハウを村内、県内、国内、海外からも生徒を招き教え、特許なしで日本中、また海外、朝鮮半島の方にも伝えていってもらったということでした。

日本国内には高山社から直接、あるいは地方からきて高山社で学び、故郷に帰り、さらにほかの人に伝えていき、高山社からと同じく授業員として地域の隅々までも派遣され指導していったことです。

授業員の滞在期間、名前、どこからの派遣かも記録に残っていませんが、村人たちはその人たちを「ボコサマセンセ」と親しんで呼んでいたに違いありません。確かに学校の教師も「がっこのせんせ」と呼ばれていました。

ホトケノザ

春の七草のホトケノザと異なり食用になりません。

◆子供のころの「ボコサマセンセって何？」という疑問が七十年たって少し解けました。

四十余年前、偶然藤岡の病院に勤務することに成り、医院を開業し、訪問診療をして、その中で一番ご高齢の女性の診療を経験させていただき、その方のご長男との、たまたま交わしたほんの「いっとき」の、そしてそれが最後になった会話が今まで七十年間持ち続けていたもやもやした糸の塊をほどいてくれたことを感謝しています。

人と人との出会いの妙は正に神秘的でした。

そのような想いでまとめてみました。